



いろは呑龍新聞

2018年(平成30年)9月号
第33号

いろは呑龍トンネルに貯めた水を桂川へ放流するポンプ場を造っています。

ドローン撮影による進行管理

呑龍ポンプ場(土木)工事は、39.5m×42.5mの大きさがあり、地上からの撮影ではポンプ場の全景を写真に納めることができないため、ドローンを使用し、上空からの写真を撮影することで、工事の進行管理を行っています。

ドローンは専用のアプリをダウンロードしたタブレット+コントローラで操作するんだ。



ドローン



H30.6月 仮囲い矢板打設



H30.7月 施工基面掘削



H30.8月 刃口金物設置



H30.9月 スラブ鋼板設置

作業室の構築(スラブ鋼板)

現在、現場ではポンプ場の建物を沈めるために、地中で掘削作業を行う地下作業室を造っています。

作業室内の天井に地中で掘削を行う天井走行ショベルを12基取り付けするため、先行してショベルレールを設置し、スラブ鋼板を溶接によりつなぎあわせて、作業室の天井部分を作っています。

鋼板1枚の大きさは約1.8m×6.0m程度であり、39.5m×42.5mの作業室の天井を作るための鋼板の数は全部で154枚にもなります。



80t吊クローラークレーン

80t吊クローラークレーンが現場に登場！
本体完成までの約2年間、現場に常駐します。



天井部分を製作中

ショベルレール

天井走行ショベル

作業室内掘削状況(別工事)



スラブ鋼板

スラブ鋼板製作状況

